

美をつくし



《白磁 牡丹文蓋物》

vol. 191

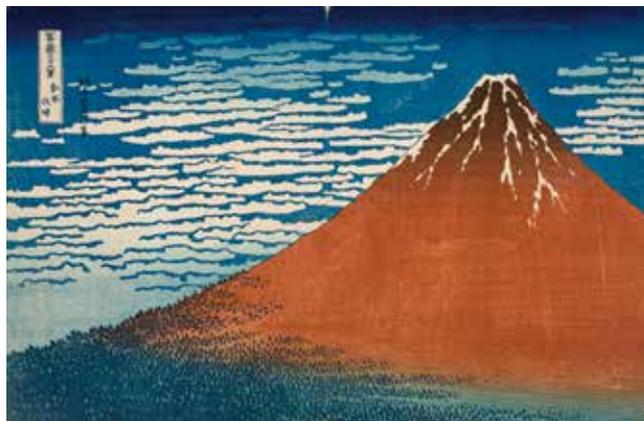
大阪市立美術館だより
平成31年3月1日発行

MI WO TSUKUSHI

オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵

メアリー・エインズワース浮世絵コレクション — 初期浮世絵から北斎・広重まで

2019年8月10日(土)—9月29日(日)



- ①《縁先美人(見立無間の鐘)》 鈴木春信 明和4年(1767)頃
- ②《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》 歌川広重 安政4年(1857)
- ③《富嶽三十六景 凱風快晴》 葛飾北斎 天保2-4年(1831-33)頃

アメリカ・オハイオ州にあるオーバリン大学のアレン・メモリアル美術館には、アメリカ人女性メアリー・エインズワースが寄贈した1500点以上の浮世絵版画が所蔵されています。このコレクションは、明治39年(1906)のエインズワースの来日を契機に始められたもので、初期から幕末まで浮世絵の歴史をたどることができるうえ、鈴木春信や喜多川歌麿など有名浮世絵師の名品を含む優れた内容となっています。特に世界でも稀少な初期の浮世絵版画や、葛飾北斎、歌川広重の作品は質・量ともに注目されるでしょう。

この珠玉のコレクションは、これまで一部の浮世絵研究者の間では注目されていましたが、アメリカにおいてもあまり紹介される機会がありませんでした。本展覧会は、現地での作品調

査をもとに選りすぐりの200点を展示するもので、その全容を日本に紹介する初めての里帰り展となります。



メアリー・エインズワースとは

- 1867年 アメリカ・イリノイ州で生まれる。
- 1885年 オーバリン大学に入学。
- 1889年 オーバリン大学を卒業。
- 1906年 来日して浮世絵に出会い収集を始める。
- 1950年 83歳で死去。遺言により、コレクションをオーバリン大学に寄贈。

メアリー・エインズワースは、アメリカでも早くに浮世絵の収集を始めたコレクターの1人です。浮世絵のコレクターの多くは男性ですが、エインズワースは彼らに肩を並べる女性コレクターとして知られていました。日本において昭和13年(1938)に出された番付表「古今東西浮世絵数寄者総番付」にもフェノロサ、ゴンクール、バーナード・リーチといった著名人とともにその名前が掲載されています。

フェルメール展

2019年2月16日(土)—5月12日(日)

ヨハネス・フェルメール(1632-75)はオランダ黄金時代を代表する偉大な画家のひとりです。その静謐で美しい画面に世界中のファンが魅せられています。今回の展覧会では珠玉のフェルメール作品とともに、同時代のオランダ絵画をジャンルごとにご紹介いたします。フェルメール作品が生まれた背景とその特質をご理解いただけることでしょう。

今回出品されるフェルメール作品は彼の足跡をたどることのできる作品がそろいました。《マルタとマリアの家のキリスト》はフェルメー



ルの最初期の宗教画です。《取り持ち女》は宗教画から風俗画へとスライドする過渡期の作品で、今回の展覧会が日本における初公開です。《リュートを調弦する女》《手紙を書く女》《手紙を書く婦人と召使い》はフェルメールらしい柔らかな光に包まれた佳品、そして《恋文》は大阪会場だけで展示されます。2000年に当館で開催されて以来となる大阪における久々のフェルメール展。この機会をどうぞお見逃しなく。

《手紙を書く女》 ヨハネス・フェルメール 1665年頃
ワシントン・ナショナル・ギャラリー

作品紹介 長宝寺^{かんぎょうじよぶんぎす}「観経序分義図」(観経会座仏)^{かんぎょうえざぶつ}

仏教絵画はわかりにくいと言われることがあるが、一つ一つ紐解けば難しいことはない。今回紹介するのは、大阪市平野区平野本町に所在する長宝寺に伝来した、釈迦の説法の様子を描く絵画である。材質技法は絹本着色、法量は縦137.0×横60.0cm。

縦長の画面中央には荘厳された蓮華座に坐す金色身の釈迦、その向かって右に弟子の目連、左に阿難が立つ。釈迦は眉間から頭上へ光を放ち、その中に煌めく楼閣、さらに上部には光台上の極楽浄土を表している。そして画面左下には、大陸風装束の女が合掌し釈迦を仰ぎ見ており、傍らには経典を捧げる侍童が立つ。人物の着衣や蓮華座に見られる緑と青を基調とした彩色が清らかな印象を作り出している。

本図は経典『観無量寿経』(『観経』)の冒頭にある説話の一幕を表した絵画である。説話の主な登場人物は、釈迦、目連、阿難、マガタ国王頻婆沙羅、王妃韋提希、その息子阿闍世。少し詳しく話を追ってみよう。

物語はマガタ国の王舎城において、阿闍世王子が実の父頻婆沙羅王を幽閉、王位を篡奪したところから始まる。王妃である韋提希は王の命を繋ぐため、バターに乾飯の粉を混ぜたものを体に塗り、胸飾りの中に葡萄酒を入れて密かに王に与え続けた。しかし阿闍世にそのことが露見し、自身も幽閉されてしまう。実子の非情な所業にこの世を憂えた韋提希が、遠く耆闍崛山にいる釈迦に向かい「せめて弟子の目連尊者と阿難尊者を遣わして私を慰問してほしい。」と涙を流して礼拝すると、2人の弟子と釈迦自らが忽ち目前に現れた。苦悩や憂いのない清らかな世界を見せてほしいという韋提希の願いに応え、釈迦は眉間から光を放ち、十方諸仏の国土のきらびやかな様を示してみせた。韋提希はそのなかでも阿弥陀仏の国土である極楽浄土へと往生する方法を尋ね、釈迦はそれを教示した。『観経』ではこれに続き、往生のため必要な行いや浄土をイメージする方法などが説かれる。

本図では説話のうち釈迦が韋提希のために無数の仏国土、輝く極楽浄土を現出させる情景が描かれている。また空から

天人たちが花を降らせる様子も、釈迦を供養するものとして『観経』に説かれる。一つの場面を描いた絵画の背後に、実は大きな物語が存在しているのである。「観経序分義図」作品群の中でも『観経』から一場面のみを抜き出して描き、金泥ではなく彩色主体で画面を構成するものは珍しい。

なお無量寿とは阿弥陀仏、『観無量寿経』とは阿弥陀仏を観ずる(イメージする)経典という意味。序分義とは『観経』の冒頭をいう。よって本図は「観経序分義図」と呼称されている。また本図の箱には「『観経』の説法の場合の仏」を意味する「観経会座仏」という墨書があり、長宝寺での伝来名称がうかがえる。

さて、本図の表現については細やかな装飾が見どころの一つである。釈迦が纏う袈裟の緑の青緑色系縹緗彩色(グラデーション)と金泥による動感のある植物文様、金色の文様が浮かぶ緑の內衣は透明感があり、袖下の右腕が透けて見える。釈迦の坐す蓮華座の蓮弁の一枚一枚には開いた花を思わせる装飾、その周りに光を宿した赤い宝珠文を配すなど美しい表現を多用する。

これらの特徴は中国の南宋～元時代や朝鮮半島の高麗時代の絵画に共通し、例えば元の支配下の高麗で制作された、東京・根津美術館所蔵の重要文化財「阿弥陀如来像」(1306年)の表現に似る。ただし本図はややフラットな彩色が見られることから、日本において制作されたと考えられる。鎌倉～南北朝時代作の愛知・曼陀羅寺所蔵「観経序分義变相図」が着衣などの部分的な変更のほかは、ほぼ奈良・円照寺所蔵の南宋～元代作の同作品を細部まで踏襲しており、模倣した可能性が高いのと同じように、本図も舶載された絵画を日本で写した作品である可能性がある。

本図が伝来した長宝寺は坂上田村麻呂の娘春子が開山し、代々女性が住職を務めている。もとは真言系の寺であったが、15代良心大姉が法然に帰依したのをきっかけに、以後真言と浄土の兼学の寺となったという。韋提希という女性が重要な役割を担う浄土信仰の絵画が伝来することは、尼寺という縁も多少なりともあってのことなのかもしれない。(石川温子)



「観経序分義図」(観経会座仏) 鎌倉-南北朝時代・14世紀
絹本着色 1幅 縦137.0×横60.0cm 大阪・長宝寺



部分図 花を降らせる天人(左上)、天花(中央)、極楽浄土(中央)

花香鳥語 — 中国明清の絵画 —

2019年4月6日(土)ー5月12日(日)

春爛漫の季節、咲き誇る花々やさえずる鳥たちを愛でるのは、古今東西を問いません。しかし、その絵画における表現は一様ではありません。中国明清時代の院体画・文人画に描き出された花鳥の華麗な競艶をお楽しみください。



《罌粟図》 王武 清時代・康熙15年(1676) 本館蔵

おおさかの仏教美術 2

2019年4月6日(土)ー5月12日(日)

当館は開館以来、近畿をはじめとする寺院、神社よりご宝物をお預かりしております。昨年の第1弾に続き、今回も大阪府に所在する約50の寺社に伝来したご宝物のなかから数点を紹介します。信仰のよりどころとなった寺社は文化財保護の担い手としても重要な役割を果たしてきました。幾度の天災、戦災を乗り越えてこの地に伝わった仏教美術作品をご覧ください。



重要文化財《兜率天曼荼羅》(部分) 鎌倉時代・13世紀 大阪・延命寺

白いやきもの

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

一口に「白」と言っても、やきものには幅広い色彩・質感の「白」があります。温かみのある中国の定窯白磁、素朴で力強い朝鮮白磁、白釉がぼったりと掛かる志野焼など・・・。



《白磁 鎚文碗・托》 朝鮮時代・19世紀初期
本館蔵(田万コレクション)

本展示では、白磁をはじめ白釉や白化粧を施したやきものを中心に紹介いたします。

絵巻を写す

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

古来、多くの絵巻が制作されると同時に、それらを「写す」という行為もなされてきました。絵を学ぶため、覚えておくため、後世に伝えるためなど、その目的は様々ですが、それらの中にも見るべきものは多くあります。本展示では、江戸時代に写された絵巻を紹介いたします。



《七難七福図巻》(部分) 吉城玉深 嘉永4年(1851) 個人蔵

幽美を求めて — 墨から墨まで —

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

鎌倉時代に禅とともに中国から伝えられた水墨画は、画僧らがその担い手となって発展し、室町時代後半以降は専門絵師らが個性あふれる絵画表現を開拓していきました。日本絵画の美を象徴する、詩情豊かな中・近世水墨画の世界をご鑑賞ください。



《富士雲龍図》(部分) 狩野探幽筆 隠元隆琦賛 寛文2年(1662) 大阪・慶瑞寺

風俗画と美人画

2019年8月10日(土)ー9月29日(日)

日本における風俗画は、近世初期に多く描かれるようになり、それに続けて単独の女性を描いた美人画が盛んに制作されました。そして、江戸時代中期には浮世絵として多くの人々に親しまれるようになります。太平の世に花開いた風俗画と美人画の世界をお楽しみください。

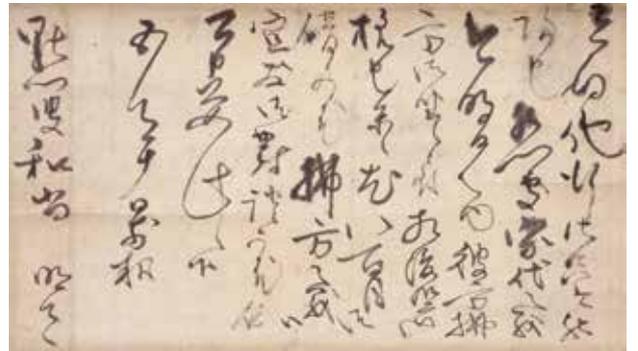


重要文化財《潮干狩り》 葛飾北斎 江戸時代・19世紀初期 本館蔵(中島小一郎氏寄贈)

天上超脱の書 —江戸の四僧—

2019年8月10日(土)ー9月29日(日)

大阪中之島美術館所蔵の山本發次郎^{やまもと ほうじろう}コレクションは、佐伯祐三の絵画などで知られますが、山本が愛してやまなかったのが、江戸の高僧たちの書でした。そのなかから寂巖・慈雲・明月・良寛の名品を展示いたします。



《黙叟和尚宛消息》 明月 江戸時代・18世紀 大阪中之島美術館

油絵祭り2019 —静かに成長する洋画コレクション—

2019年8月10日(土)ー9月29日(日)

商都として栄えた大阪はかつて関西洋画の中心地でもありました。昭和11年の開館以来、当館ではさまざまな美術団体の展覧会を開催するとともに、日本洋画の収集を進めてきました。常設展史上まれにみる、にぎやかな油絵祭りをお楽しみください。



《教会》 佐伯祐三 大正13年(1924) 本館蔵

よそおう —化粧道具—

2019年8月10日(土)ー9月29日(日)

古より「色の白きは七難隠す」という諺があるように、これは江戸時代の女性にも存在した美意識であったようです。当時は、白粉をはじめとする化粧の慣習が一般にも広がり、様々な形状の化粧道具が生まれた時代でもありました。紅板と称する携帯用のリップパレットが登場するのもこの頃からで、蒔絵・象嵌などで美しく装飾され、重宝されました。本展示では、江戸時代の化粧道具を中心に紹介いたします。



《菊木地蒔絵紅板》(身部分) 江戸時代後期ー明治時代初期・19世紀 本館蔵(カジュアルコレクション)

よそおいをうつす —和鏡—

2019年8月10日(土)ー9月29日(日)

鏡は人の姿を映し出し、化粧や装いに用いられます。鏡の背面には文様が鑄出され、その時代の世相や文化が映し出されます。ここでは平安時代から江戸時代にかけて日本で製作された鏡を紹介いたします。装いの文化を映し出す和鏡の世界をご堪能ください。



《青銅 亀甲双雀文鏡》 室町時代・15世紀 本館蔵

大阪市による新法人設立についてのお知らせ

平成31年4月1日付けで、大阪市は地方独立行政法人大阪市博物館機構を設立し、市内の6館の美術館・博物館(大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館、大阪中之島美術館〔2021年開館予定〕)について、同機構のもとで運営する予定です。新法人設立後も、各館の名称はもとより、各種事業はこれまで同様に行うことといたします。なにとぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

作品修理報告

平成29年度に下記3点の所蔵作品の修理が完了しました。展覧会等で順次公開します。

- 《芸能譜》 中村貞以 2曲1双
- 《天発神讖碑》 4幅
- 《茶吉尼天曼茶羅》 1幅(部分右図)



イケフェス大阪 2018

当館はこのたび「生きた建築ミュージアム フェスティバル 大阪2018」に参加いたしました。本イベントは毎年秋に大阪の魅力的な建築を公開するもので、当館の参加は大阪市都市整備局の強い要望によって実現したものです。当館は特別展開催中のため、10月29日(月)にアフターイベントとして休館日の美術館をご覧いただくべくガイドツアーを企画・実施いたしました。希望者は定員を超え、抽選によった参加者には登録有形文化財の美術館本館の魅力を隅々までお楽しみいただけたようです。ご来館の際には美術館の建物にもぜひご注目ください。

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設へお問い合わせください。

<p>《金輪仏頂図》</p> <p>中之島香雪美術館(大阪市) 2019年3月21日(木・祝)～5月6日(月・振休) 「明恵の夢と高山寺」</p>	
<p>岡本豊彦《呉春像》ほか 計4件</p> <p>西宮市大谷記念美術館(西宮市) 2019年4月6日(土)～5月12日(日) 「四条派への道」</p>	
<p>長谷川等二《竹藤図屏風》(田万コレクション)</p> <p>石川県七尾美術館(七尾市) 2019年4月27日(土)～5月26日(日) 「長谷川等伯展 ～屏風・襖・大画面作品を中心に～」</p>	
<p>《邸内遊楽図屏風》</p> <p>サントリー美術館(港区) 2019年6月26日(水)～8月18日(日) 「遊びの流儀 遊楽図の系譜」(仮称)</p>	
<p>《銅造 誕生釈迦仏立像》(田万コレクション)</p> <p>三井記念美術館(中央区) 2019年7月6日(土)～9月1日(日) 「日本の素朴絵 一ゆゑ、かわいい、たのしい美術一」</p>	

特別展

仏像 中国・日本

2019年10月12日(土)～12月8日(日)

悠久の歴史を刻む中国の仏像。それを受容してきた日本の視点で読み解きながら通観する特別展を開催します。日本にはいつの時代にも中国でつくられた多くの仏像や仏画が舶載され、日本の仏像のすがたに大きな影響をあたえてきました。

本展では、まず「古代の人物表現 戦国～漢時代」を踏まえ、「仏像の出現とそのひろがり」、「遣隋使・遣唐使の伝えたもの」、「禅宗の到来と「宋風」彫刻」そして「新たな仏教・キリスト教との出会い」の各章を通じ、中国南北朝時代から明・清時代にいたる仏像の移り変わりを、関連する日本の仏像と共にご紹介いたします。



重要文化財(木造 観音菩薩立像)(部分)
隋時代・6-7世紀 堺市博物館

◆表紙作品紹介

《白磁 牡丹文蓋物》 伊万里焼 江戸時代・17世紀後半
本館蔵(岩田久子氏寄贈)

ろくろ挽きの後、型に押し当てて陽刻文を施しています。純白の白磁に、ほのかに浮かびあがる牡丹文が温雅な雰囲気なたたえ、この時期の伊万里焼の技術の高まりを示しています。

大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

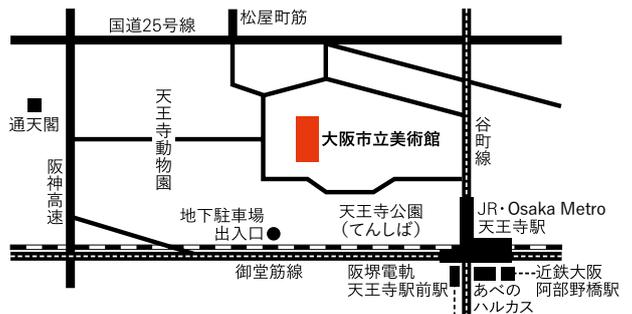
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m